

特集「横浜、どんな街？横浜の歴史を訪ねて。」

横浜開港資料館／横浜市磯子区民文化センター 杉田劇場／
三吉演芸場／同發新館／岩崎博物館 山手ゲート座ホール

対談「横浜ってどんな街？」

横浜LOVEWalker プロデューサー 鷹取祐子 × 長塚圭史

- 「僕が見た横浜、こんな街。」森日出夫 ●長塚圭史の思いつき ●REVIEW
- KAATな人の行きつけ ●神奈川へ、会いに〈馬車道商店街協同組合〉
- 今日はKAATに何しに来たの？ ●ただいま、KAAT準備中 ●公演スケジュール

季刊誌

ひらかれた劇場へ。

神奈川芸術劇場

KAAT PAPER

特集

横浜の子どもたち

主・人・まちをつくる
創造型劇場KAATの広報紙

2022

2022



横浜、どんな街？ 横浜の歴史を訪ねて。

2022年度のメインシーズンタイトル「忘」(ぼう)には、“忘れる生き物”である私たち人間は、時に昔をふりかえり、今立っている場所を見つめ直すことも必要だというメッセージが込められています。今回の特集は、KAATのある横浜について、「劇場」や「パフォーミングアーツ」の視点から歴史を教えていただいたり、横浜にゆかりのある方々を訪ねました。開港以来、横浜は日本の近代化を支えてきた街。言うなれば、今を生きる私たちは皆、「横浜の子どもたち」。過去を知り、受け継いでいくことで、未来へのヒントがみえてくるかもしれません。

横浜開港資料館

(所在地)
神奈川県横浜市中区日本大通3

横浜開港の歴史は、現在の横浜スタジアム前から海側に延びる日本大通りの端、つまり横浜開港資料館のあるあたりから始まりました。歴史の教科書にも載っている有名な絵「ペリー提督・横浜上陸の図」(1854年の様子を描いたもの)には、同館の中庭にある「たまくすの木」が描かれています。1859年の開港後、日本大通りから東側の中華街を含む一帯が外国人居留地に、西側の桜木町までの一帯が国内各地からやってきた日本の商人たちの住处となりました。「横浜は、外から来た人たちでつくっていった街です。『3日住んだらハマっ子』といわれる所以ですね」と青木副館長は語ります。外国人居留地のあった山手周辺では、自国民を守るために派遣されたイギリスとフランスの軍人たちと商館の人たちが、一緒になってラグビーや野球などのスポーツを楽しみました。横浜公園では日本人との対抗試合も。山手公園ではフラワーショーや軍楽隊の演奏が行われました。横浜は外国文化が輸入されるだけでなく、日本の土産物などさまざまな商品がつくられ、海外に輸出される場でもありました。その中には当時の日本の街を写した写真のアルバムや、日本の伝統的な焼き物の真葛焼に、西洋の意匠を施したものなどがあったそうです。こうした街の歴史を記した資料の多くは、関東大震災と横浜大空襲で焼けてしまうという事態に。横浜で活動していて本国に戻った各国の領事から、横浜について記した資料が収集されました。また、実は2011年のKAAT開館前に現場で実施された発掘調査が、横浜の歴史調査において大きな転換点だったとか。「最近では考古学者のチームによる発掘調査も増えて、横浜が港として栄え始めた当時の様子をより鮮明に知ることができる時代になりつつあります。この歴史を代々伝えていくために、資料を残していくことが私たちの使命です」。



シンボルツリーの「たまくすの木」



ペリー提督横浜上陸の図 © 横浜開港資料館



横浜開港資料館副館長の青木祐介さん



KAATからのひと言

横浜は「人とモノが行き交う街」という青木副館長の言葉が印象的でした。KAATからは徒歩5分。とても近いので、ぜひ公演などの行き帰りに立ち寄って、横浜の歴史を感じてください。

三吉演芸場

(所在地)
神奈川県横浜市中区万世町2-37

横浜市営地下鉄阪東橋駅を降りると、長さ300メートルの横浜橋通商店街が、昼も夜も買い物客でにぎわっています。日本だけでなく世界各国の生鮮食品やお惣菜が並ぶアーケードを抜けて中村川に向かうと、そこに現れる近代的な建物が、横浜で唯一の大衆演劇専門の劇場〈三吉演芸場〉です。「創業は1930年です。戦前は銭湯の2階の貸席として、近所の人が素人芸を披露する場所でした。後には、映画の上映と共に大衆演劇の公演を行っていました」と教えてくれたのは、昨年末兄である本田博さんより三吉演芸場の社長を引き継いだ本田明子さん。「戦時中は、奇跡的に横浜大空襲を免れ、貸席を避難所として提供し、市より感謝状をいただきました。戦後は映画も上映する劇場として再開し、1973年からは母の本田玉江が経営者となり銭湯と演芸場の両方を経営していました。母は芝居好きだったので、目の前を流れる中村川で“舟乗り込み”※1を企画したり、地元出身の落語家・桂歌丸師匠の独演会や原田ヒロシさんの歌謡ショーをしたりと、さまざまな興行を企画していました。役者さんたちと、横浜開港記念みなと祭の国際仮装行列に参加したこともありました」

地元の方に愛された三吉演芸場ですが、1990年代に建物の老朽化が顕著に。すると、桂歌丸さんが会長となり『三吉演芸場を残す会』が発足し、多くの方々からの寄付により現在の大衆演劇の常設劇場として生まれ変わりました。現在は毎月、人気の劇団が公演を行い、全国から多くのファンが駆けつけています。「扉を開ければ、夢のような煌びやかな世界が広がっています。大衆演劇を未経験の方も、ぜひ多くの方に楽しんでいただきたいと思います」



横浜夢座 朗読公演『真昼の夕焼け』



開業当初の旧杉田劇場



KAATからのひと言

地域に根差した活動を通して、地元の皆さんに愛されている様子がよくわかりました。“劇場”が決して敷居の高い場所ではなく、日常のなかに溶け込んでいることが羨ましくもあり、KAATもそういう存在になることを目指したいと思います。



社長の本田明子さん(写真左)とスタッフの皆さん

KAATからのひと言

これまで大衆演劇に触れる機会がありませんでしたが、お目当ての役者さんに“おひねり”を渡す様子は新鮮でした！劇団員のお子さんが近くの小学校に通うこともあるそうで、地元の皆さんにとっても演芸場が身近な存在なんですね。

※1 舟乗り込み

役者たちが装飾した舟に乗り、劇場へ向かうこと。江戸の歌舞伎役者が大阪で初めて公演するときや、大阪の役者が江戸から戻った時に行う華やかな催しのこと



明治期に創業し、横浜中華街で100年以上の歴史をもつ老舗の広東料理レストラン〈中華菜館 同發〉。現在、改装工事中の〈同發新館〉は、かつては〈新光映画劇場〉という中華街唯一の映画館でした。映画館としての役目を終え、閉館した1964年から〈同發新館〉として運営され、広東料理のレストランとして人々に親しまれていました。

「レストランだった時代は、専属バンドによる珍しいミュージカル・ソー*2の演奏や、中国の伝統音楽を聴きながら食事を楽しんでいただけの場所でした。地元の方の結婚式やパーティに使用されることも多かったのですが、山下洋輔さんなどいろいろな方がライブをしたり、演劇のイベントの会場になることもありました」と、同發の周慶錦社長は振り返ります。

細野晴臣さんが1976年に同發新館で行ったライブ「細野晴臣 & TIN PAN ALLEY IN CHINATOWN」は、ティン・パン・アレーのメンバーや矢野顕子さんなどが参加し、今も伝説として語り継がれています。その40年後、2016年に「細野晴臣 A Night in Chinatown」として再びライブを行った際には、星野源さんがシークレットゲストとして参加しました。

ミッキー吉野さんが参加した『TUNG FAT HEAVENS AND SWEETS』(三沢洋紀さんプロデュース)というアルバムは、ここでライブレコーディングしたんです。シネマ・ジャック&ベティと横浜中華街が共同開催した〈横浜中華街映画祭〉では、ここで中国映画の上映会を行いました。同發新館は大人の隠れ家のような雰囲気もあって、皆さんに愛された場所でした」

現在、同發新館は建物の老朽化により、改装工事中です(本館・別館は営業中)。横浜の文化を支えたこの場所は、生まれ変わり新たな歴史を紡いでいきます。

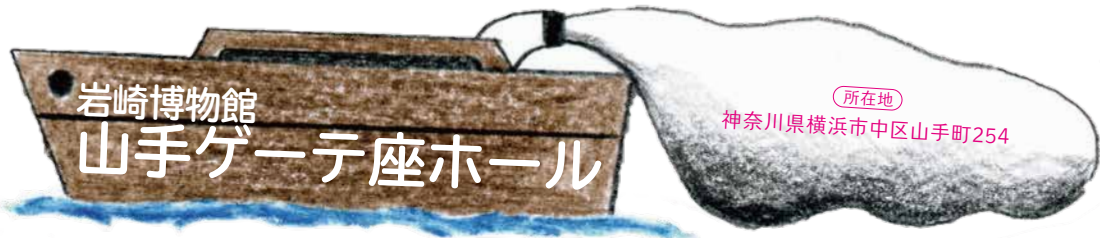


*2 ミュージカル・ソー

西洋ノコギリに似た鉄板をたわませながら、バイオリンの弦のようなもので弾くと音程を自在に変化させることができる体鳴楽器のひとつ。

KAAT からのひと言

伊勢佐木町や馬車道に多くの映画館があったことは有名ですが、中華街の真ん中にも映画館があったことを知り、時代の流れを感じました。残念ながら閉館してしまいましたが、新たな建物がどんな場所になるのか、楽しみです。



1859年の開港により、横浜に西洋人が住む居留地が設けられました。そこに住まう西洋人たちが、娯楽のために自分たちで演劇をしたり、演奏会を開催したのが、ゲート座の始まりでした。

「オランダ人貿易商のノルトフーク・ヘフトさんが、1870年に現在の山下町あたりに、アマチュア劇団のための劇場をつくりました。これが〈横浜本町通りゲート座〉です。この名前は、英語で、楽しい、陽気という意味のGaiety(ゲイティ)に由来します。1885年には現在の場所に、西洋人住民による発案で、フランス人建築家サルダ設計の西洋式劇場〈ゲート座〉が建設されました」と、岩崎博物館の小池成樹さんは教えてくれました。

「1891年には日本で初めて、外国人劇団によるシェイクスピアの『ハムレット』が上演されました。当時、観客のほとんどは日本に住む外国人でしたが、日本で西洋演劇に触れられる貴重な劇場ということで、坪内逍遙や北村透谷なども足しげく通ったそうです」

日本の近代演劇史に大きな影響を与えた〈ゲート座〉は、1923年の関東大震災によって崩壊しました。さらに戦災によって資料が失われ、長らく正確な位置は不明とされていました。

「1980年、学校法人岩崎学園 横浜洋裁学院(現・横浜fカレッジ)が創立50周年記念事業の一貫として博物館を建てることになったのですが、基礎工事の最中に明治期に使われたジェラル瓦等が出土したんです。それによりここがゲート座の跡地だと確定しました」

現在は、かつてのゲート座の資料や服飾の資料、アール・デコやアール・ヌーボーの美術品の展示や企画展が開催されるギャラリー、カフェ、客席数100席の〈山手ゲート座ホール〉のある文化拠点〈岩崎博物館〉となっています。

「このホールでは、クラシックやジャズ、フォークなど多くのジャンルのミュージシャンが演奏しました。これからもサロンコンサートや演劇の公演を行っていき、ゲート座の名前を語り継いでいこうと思っています」



KAAT からのひと言

横浜は「開港により海外の生活文化全般が港を介して入ってきた場所」であると横浜開港資料館で伺いましたが、ゲート座はその象徴のような場所と言えます。日本の近代演劇史に影響を与えた劇場の雰囲気を、現在の山手で感じられるのも、貴重なことですね。



岩崎博物館館長の小池成茂さん

僕が見た横浜、こんな街 写真家＝森日出夫

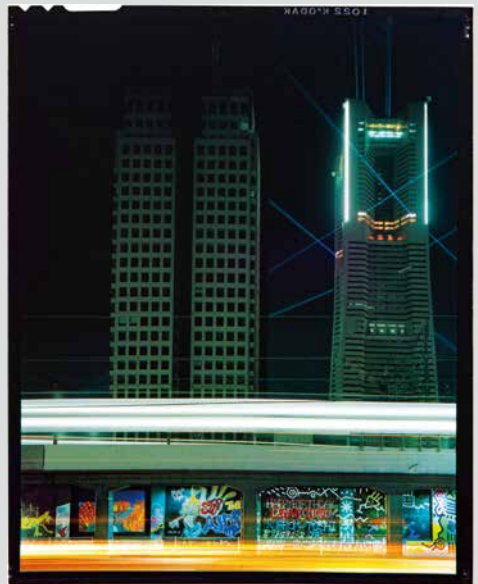
僕が小さい頃、街には駄菓子屋があつて、八百屋があつて、道路に市電も走っていました。でも、街はいつの間にか変わってしまった。人々は昔の風景を忘れてしまいます。それでもいいけれど、誰かが記録しておかないと、後世の人たちが、進化したのか改悪されたのかを比較することができません。だから街の風景を、写真家の意識を通して空気感と一緒に記録しておこうと、「森の観測」という写真のシリーズを続けています。

桜木町ガード下のウォールペインティング。1970年代にウォールペインターのロコサトシが、チョークでいたずら書きを始めたのが最初でした。そこからみんなが参加し始めて、横浜市がサンディエゴからアーティストを招いて文化交流をしたり、若者たちがグラフィティーで埋め尽くしたり。でも、僕は当時から予感していたんです。そのうち、みなとみらいの勢いが増して、このあたりを潰してしまうんじゃないか。だから、1992年～95年のガード下の風景も、写真で残しておきました。

横浜人は、ちょっとクールな気質があるんです。考えてみれば、江戸時代に小さな漁村だったところが、開港して外国から新しい文化が入ってきて。それを上手に取り入れながら発展を続けているけれど、変化に慣れているから、冷めているように見えるのかもしれない。みなとみらいなんて最初は造船所。1979年に基本構想が発表されて、1983年に着工して、それから今に至るまでずっと発展し続けています。言うなれば、横浜はずっと変わり続ける、いつまでも未完成な街。それを記録し続けるのが僕の仕事です。



1980年のみなとみらい地区。三菱重工業横浜造船所、国鉄の貨物駅、港湾施設が広がっていた。



1992年のクリスマス、横浜ランドマークタワー開業の前に行われたライトアップイベント。東急東横線桜木町駅のガード下はウォールペインティングで埋め尽くされている。

森 日出夫

写真家。1947年横浜市西区生まれ、横浜在住。JPS(日本写真家協会)所属。長年撮り続けた横浜の港・街・人を「森の観測」と名づけ、それらの作品を写真集や個展で多数発表。独自の感性で森の「記憶」を記録する。1996年ニューヨークADC賞受賞。2001年第50回横浜文化賞奨励賞受賞。主な作品集に「森の観測vol.2-WALL・記憶へ」「YOKOHAMA PASS ーハマのメリーさん」人物全身像写真集「わたし」など。

対談

横浜LOVEWalker プロデューサー

KAAT神奈川芸術劇場 芸術監督

鷹取祐子 × 長塚圭史

「横浜ってどんな街？」

芸術監督に就任してから、神奈川県に向き合ってきた長塚監督が、劇場のある街、横浜を改めて見つめ直そうと、『横浜ウォーカー』の編集長を務めた編集者の鷹取祐子さんをお迎えしました。生まれ育ったからこそわかる横浜のエリアごとの特長や、横浜ツウになる方法、これから街はどのように変貌するのかなど、知っているようで意外と知らない話が飛び出しました。

文＝三浦真紀 写真＝河内 彩



横浜みなとみらいが一望できる、大さん橋客船ターミナルにて。

“広くて深い街、横浜”を深く知るために。

鷹取 長塚さん、横浜との関わりはいつ頃からですか。

長塚 2011年のKAAT神奈川芸術劇場オープンの際に『浮標』という作品を演出して、それから10年の付き合いです。と言っても、僕はまだまだ横浜初心者。ハードルが高過ぎて、実際に自分が横浜で働くようになって、未知な部分が多いんです。広すぎる。深すぎる。簡単には語れない。今回、横浜とはどんな街なのかを伺いながら、僕が横浜に入り込むとっかかりを教えていただけたらうれしいです。

鷹取 お気持ち、お察しします(笑)。私は新聞の求人広告を見て横浜の情報誌を自分の手でつくりたいと応募。それで『横浜ウォーカー』の立ち上げから参加し、その後、『東京ウォーカー』に所属しながら増刊の『千葉Walker』『埼玉Walker』などさまざまな地域版を担当し、『横浜ウォーカー』の編集長になりました。今は『エリアLOVEWalker』のプロデューサーというかたちで、横浜のYouTube生配信だったり、ウェブ記事などで横浜に携わっています。

長塚 横浜の情報誌をつくる、そのエネルギーはどこから来たのですか。

鷹取 私は横浜市栄区で生まれ、港南区一昭和40～50年代の新興住宅地で育ちました。小学校と高校は山手、横浜の中心部に通っていたんです。また自分にとって決定的なことが二つあります。一つは高1の時に開催された「横浜博覧会」(略称YES'89)。例えばアイスクリームは横浜が発祥!というような、ハマっ子のアイデンティティを植えつけるようなパビリオンがありました。そこで自分が生まれ育った横浜で多様な文化が生まれてきたことに気づき、関内、山下町、元町、横浜中華街、馬車道など、いわば文明開化の匂いを感じられる横浜を一人でめぐるようになったんです。もう一つ、これは横浜あるあるで、横浜の小中学校の学校行事では横浜市歌を歌うんです。ハマっ子には校歌を忘れても市歌は忘れないと言われるくらい、この市歌が染みついています。この森鷗外さんによる歌詞がじつに印象的でして。2番の歌詞が「されば港の数多かれど この横浜にまさるあらめや」、つまり横浜よりも優れた港はあるのか? いやない、と。今では「よこはまアラメヤ音頭」という盆踊り曲もあるくらい(笑)。この市歌を幼少期から歌い続けたことは、ハマっ子としてのアイデンティティに影響している気がします。

横浜と“仲良くなれる”スポット、〈ぴお地下〉。

長塚 面白いですね。(歌詞を見て)横浜市歌をみんなで歌うという話は聞いたことがありますが、こんなに激しい歌詞だとは。KAATは地域にひらきつつも、東京からのアクセスの良さで演劇ファンを集め、10年かけて徐々に知名度を上げてきました。さて、次は地元である横浜、そして神奈川県にアピールしていきたい。どうやって地元の人たちとつながるか、今その課題に向き合っ

ているところです。

鷹取 芸術監督はそんなところまでお考えになるんですね。

長塚 確かに上演するプログラムのことに重心をかけていればいいという考え方もあるけれども、僕自身、演出家であり劇作もする人間で、劇場というのは演劇に関わる人たちが働く場所です。やっぱり自分たちの職場が快適で刺激的で充実した場になるように思考する代表としての役割もあると思っているんです、芸術監督という仕事は。そして地域と密接につながっているのが公共劇場の役目であり特性です。だから質問させてほしいんです。どうしたら僕は横浜とつながれるでしょうか？

鷹取 私、『東京ウォーカー』の担当だった時に衝撃を受けたんです。横浜では創業50年で老舗ですが、例えば、東京・日本橋では創業200余年がざらにある。となると、私が『横浜ウォーカー』で感じていた“VS東京”の絶対的な意識って何だったんだろう、と。横浜の人はプライドというか横浜への思いが強く、同時に「横浜が好き」と言ってもらえれば何でも受け入れる、懐の深さもあるんですよ。「3日住めばハマっ子」という言葉もありますし、同じ編集部員は名前に「浜」の字が入っていることだけで受け入れられたり(笑)。これは横浜の港の成り立ちと関係があると思います。横浜は日米修好通商条約により1859年に開港。その当時、横浜に住んでいたのは70世帯ほどだったとか。それが開港をきっかけに、国内外から大勢の人がやってきて、エネルギーが渦巻きはじめた。つまり元々強い個性をもっていたというより、何かを受け入れて面白がる、多様性に満ちた街だった訳です。その精神が今の横浜の人たちの根底に流れているように思います。ですから長塚さんが横浜に興味を持ち、劇場を通して横浜を盛り上げたいと思う、その気持ちが伝われば大丈夫！

長塚 参考になります。確かに話してみると皆さん、胸を開いてくださいます。

鷹取 あと東京ではビジネスで通じるところが、横浜の場合、あなたはどれくらい向き合っているの? と試されるところがありますね。人付き合いが密で、地域コミュニティーや飲み会も活発で。

長塚 野毛もそういう街でした。コロナ禍になってから、なかなか飲むコミュニケーションがとれませんが、気持ちは満々なんですよ(笑)。この劇場界限ともこれからもっと積極的につながっていきたいですね。横浜なら、ここは絶対に行っておかないと! というおすすめスポットはありますか。

鷹取 私も野毛は20年来通っています。もう一つは、〈ぴお地下〉。桜木町駅前の〈ぴおシティ〉の地下に飲み屋街があって、ここは相当にディープ。ぴお地下が行きつけと言えば、すごい! となりますよ(笑)。野毛については、以前、桜木町まで来ていた東急東横線がみなとみらい線に乗り入れるようになり、一時は人出が減ったこともありました。そこで若手の店主が進出して、今は若い人たちが通うおしゃれ飲み屋街のようになっています。

長塚 若者たちはどんなところで遊んでいますか? 昔とはかなり変わっているようですが。

鷹取 年代によって違いますね。40代以上の方が遊んでいたのは、関内地区や山下町地区。関内に映画館がたくさんあり、エンターテインメントの中心地は伊勢佐木町でした。1998年の『横浜ウォーカー』創刊時、ちょうどオープンしたのが〈横浜ベイサイドマリーナ ショップス&レストランツ〉(現三井アウトレットパーク 横浜ベイサイド)のレストラン部分。その後、〈横浜ワールドポーターズ〉、〈横浜赤レンガ倉庫〉、〈横浜みなとみらい万葉倶楽部〉などが誕生し、みなとみらい地区が拡大してきた訳です。ですから今の30代以下の方々にどこで遊ぶかを聞いたら、みなとみらいを選ぶ方が多いでしょうね。

長塚 今の話を聞いて、ロンドンを思い出しました。ロンドンって流行の中心地がどんどん移り変わっていくんですよ。ちょっと前までは危ないエリアだった南側の地区が突然人気になって、逆に、以前の人気スポットが閑散としていたり。

鷹取 確かに似ていますね。今はみなとみらい地区が拡大中で、〈YOKOHAMA AIR CABIN〉やあらゆる商業施設ができています。でもこの先、関内地区が再度、盛り上がると私は思っています。来年には関東学院大学の3学部が関内に移転。その関東学院大学と横浜市立大学が横浜中華街とコラボして、横浜中華街の街づくりを盛り上げるなど、若い方たちを巻き込んだ取り組みが始まっています。関東学院大学の横浜・関内キャンパスができると、伊勢佐木町あたりはすごく変わるでしょうね。そうなるとKAATまで徒歩圏ですから、劇場あたりも変わるかも。

長塚 それは楽しみです。みなとみらいは近代的な迫力を感じますね。建物の高さを含めて『ブレードランナー』みたいな世界。今も拡大しているし、文化面でもモダンな視点から街を見直すような、有機的な試みを積極的にやられていて、すごいなあと。

鷹取 当初の都市計画では横浜ランドマークタワーを頂点に、それより低い建物をつくっていくかたちだったと聞いています。だから真横から見ると、横浜ランドマークタワー、クイーンズスクエア横浜と段々低くなり、パシフィコ横浜につながる。パシフィコ横浜 国立大ホールは貝殻のかたちをしています。この辺もハマっ子の心をくすぐるような街計画ですね。

KAATから街、市、県、全国に向けて発信

長塚 鷹取さんにとって、横浜で一番お気に入りのスポットは？

鷹取 一番となると本当に難しいのですが。私の原点的な場所を挙げるなら、山下公園の前から桜木町をつなぐ、開港の道です。ここは私が『横浜ウォーカー』の編集長の内示を受けた時に一人歩いた道。この媒体を通して地元愛を貫くと決めた、思い出深い通りです。また、今回撮影した大さん橋も大好きです。山下町からみなとみらいまでが一望できて潮風を感じられる、しかも無料(笑)。企画が煮詰まったり、リフレッシュしたい時に行くことが多いです。そしてハマっ子が大好きなホテルニューグランド。関東大震災の復興のシンボルであり、ここから全国に広まった洋食メニューがあります。

長塚 僕もコロナ禍で稽古が止まり、切ないことがあっても誰かと一緒にご飯を食べることもできない。そんな時は缶ビールを買って、山下公園で夜の海を眺めながら、どうしたものかな……と。広々とした場所でお金がかからず好きに過ごしていい、そんな場所があるってすごく豊かですね。思考する場所というか。

鷹取 潮風も大きな要素ですね。風を感じることでリフレッシュできる。

長塚 わかります。プロムナードを歩くだけでもスッキリしますからね。またロンドンの話になりますが、ロンドンも公園が大きいんです。みんな何してるのかな？と思って見回すと、何もしないで考えている人も多い。横浜はそういうところが身近だと感じます。

鷹取 地理的にギュッと詰まっていて、山下公園から横浜中華街も元町も歩いてすぐ。街のいろんな側面を見られるから、歩くのが楽しい街でもありますね。

長塚 鷹取さん、KAATはどんな印象ですか。

鷹取 さまざまな試みをされていて、建物に入ってすぐのアトリウムでもお芝居をされたりとひらかれている印象です。すごくいいなと思います。

長塚 作品一つひとつも大切ですが、劇場として年間を通したテーマをもち、僕らはこんなことを考えているよと発信できる場所にしていきたいんです。街に劇場があることがどう素敵なのか、実際に訪れてみないと体感できない部分もあるでしょうから、まずは面白そうだなと思ってもらえるように頑張りたいです。

鷹取 ますます楽しみです。昨年、横浜中華街が「横浜中華街映画祭」と銘打って、中華街にまつわる5つの映画を製作、ネットで公開したんです※1。その

映画の一つ、対話『Odore.』では、市役所の方を含めたエキストラたちが中華街の大通りで踊り、撮影したと聞きました。そういった街おこしに関わりたいたいと思っている人も多いでしょうし、何かきっかけとなる企画をつくるのも一案かもしれません。

長塚 そうですね。近隣のエリアと少しずつ関係を深めていって、将来的に何かできたら。自分たちからどんどん出かけていって、できることを探していきたいです。

鷹取 公演ツアーで神奈川を回られたのも、いいアイディアだと思います。

長塚 『冒険者たち～JOURNEY TO THE WEST～』ですね。あの作品は僕を書き下ろしで、『西遊記』の面々が現代の神奈川に紛れ込む話です。あの街この街、あちらの神社、こちらの神様、この飲食店あの飲食店が出てきたりと、茶目っ気たっぷりの作品でした。

鷹取 地元愛を訴求した企画はいいですね。『横浜ウォーカー』でも地元をキーワードにした企画は非常に人気がありました。私は長く紙媒体に関わってきましたが、どうしても誌面だけでは表現できないこともあって。スペースが限られているし、匂いや音も出せない。写真も多数連続して載せるのは難しい。紙では凝縮したエッセンスしか紹介できないんです。その点、演劇は生のパフォーマンスを体感できるのが面白いし強みです。ぜひそれを実体験できるオープンな機会があるといいなと思います。一方で、私は演劇を観たら気の利いた、高尚な感想を言わなければいけない？という思い込みもあって。例えば、小学生の時に読書感想文で感動しました！と書かなければ、という。

長塚 確かに演劇は敷居が高いとよく言われます。でも基本的に演劇も娯楽。目の前でお芝居をしている人たちの、いわば嘘に乗ってみんなで架空の世界をつくり上げる、そのエネルギーを感じていただけたらいいんです。日常から少し逃れて、違う視点や爽快感を手に入れる、そんな気軽な感じで観ていただければ十分。「面白かったー」でも「よ

くわからなかった！」でも大丈夫。終演後、僕がふらっと劇場の表に立っていると、時々感想をひと言くださるお客さまがいるのですが、それだけでとってもうれしいんですよ。

鷹取 長塚さんがKAAT、そして横浜を拠点に仕掛けてくださることで、新しいものにめぐり合える機会ができて、自分の眼が開く予感がします。この先が楽しみです。

長塚 ご期待に沿えるように頑張ります！

※1 横浜中華街映画祭リンク <https://yokohama-chinatown-filmfes.jp>

鷹取祐子 Yuko Takatori

編集者。横浜市栄区生まれ、港南区育ち。早稲田大学卒。1997年角川書店入社。1998年『横浜ウォーカー』の創刊に携わる。2012年、6代目『横浜ウォーカー』編集長に就任。現在は『エリアLOVEWalker』プロデューサーとして『横浜LOVEWalker』YouTube生放送などに出演。

長塚圭史の思いつき

これからの新しいKAATを探るなら、そのヒントは長塚芸術監督の頭のなかにあるはず。そこで、今号制作の過程でつかんだ手応えや新しい発見について聞いてみました。

僕らは〈KAAT 神奈川芸術劇場〉という、県名を冠にしている劇場です。今どういう地に僕らが立っているのか、自分の足元を深く知ることとはとても重要なことです。昨年度の〈KAATカナガワ・ツアー・プロジェクト〉では県全体に視野を広げ、劇を運びましたが、劇場と同じ地域のなかにある馬車道や中華街とつながることで、僕らが発信することがさらに放射線状に広がっていく可能性を感じています。そして鷹取祐子さんのような街のエキスパートに教えてもらいながら、自ら好奇心の手を伸ばしていくと、じつに個性的で面白い方々と出会える街です。今回の特集を通して、僕も劇場を飛び出して、もっともっと街に出かけようと思いました。

※ご意見・ご感想をぜひツイッター・Instagramに「#kaatpaper」をつけて投稿してください。もしくはkouhou03@kanagawa-af.orgまでメールをお願いいたします。

REVIEW



KAATキッズ・プログラム2022

『ククノチ テクテク マナツノ ボウケン』

2022年7月20日(水) — 24日(日)KAAT神奈川芸術劇場 〈大スタジオ〉

振付・演出:北村明子 美術:大小島真木

出演:川合ロン、清家悠圭、岡村樹、黒須育海、井田亜彩実、永井直也

『さいごの1つ前』

2022年8月10日(水) — 21日(日)KAAT神奈川芸術劇場 〈大スタジオ〉

作・演出:松井周 出演:白石加代子、久保井研、薬丸翔、湯川ひな

大人こそ観るべき、子どもに向けた舞台芸術とは？

文=臼井隆志(アートエドゥケーター)

私は企業やビジネスパーソンに向けて、劇場や美術館でワークショップをする仕事をしています。コロナ禍もあり、4歳と2歳になる自分の子どもとアートに触れることができていなかったのですが、KAATキッズ・プログラムに参加してみることにしました。

まず、その第一弾『ククノチ テクテク マナツノ ボウケン』へ。大自然の精霊が出てきて、主人公たちを冒険に誘う、という物語。劇場に着くと1階のアトリウムがにぎわっています。劇中の美術と同じ絵柄を使って「お面づくり」ができるのです。早速お面をつけて森の精霊になった娘と5階の大スタジオへ。ロビーでは振付動画を観ながら、本番で一緒に踊るダンスをして遊ぶことができます。いざ、



撮影=大洞博靖

上演が始まります。夏、公園で遊ぶ少年たちのなかに森の精霊たちが紛れ込んでいきます。ダンスの動きのなかに「あっちむいてほい」や「手押し相撲」といった遊びの身振りが混ざっています。まるで客席にいる子どもたちに「あなたの遊ぶ動きもダンスなんだよ」と伝えているようです。中盤では、轟く雷鳴と豪雨のなかで精霊が激しく舞い、自然への畏れを体験させられるシーンもありました。そして、最後のシーンでは、いよいよお面をつけて私たちも自ら森の

精霊になって踊ります。帰宅後、眠る前にベッドの上でお面をつけて、劇中の音楽を口ずさんでいる娘を見ながら、彼女のなかには、遊びも畏れも織り交ぜられた体験が染み込んでいるのかもしれないと考えていました。

その2週間後、今度は『さいごの1つ前』へ。今回は、2歳の息子を託児所に預けてパートナーと娘と3人で観劇をしました。じつは、この時初めて託児所



撮影=宮川舞子

に預けられた息子ですが、保育士の方の丁寧な対応に安心し、楽しく過ごしたようでした。観劇のために子どもを預けた罪悪感がなく、ありがたいことでした。冒頭、3人の人物が、ぼうっと浮かぶ光を見えています。80歳の女優、白石加代子さんが近くにいる男性に「この人、敵!？」と話しか

けます。家族で映画を観ていて、白石さんは子ども役なのかな?と考えていると、次の瞬間に男が現れて「あなたたちは死んでいます。ここは地獄に向かう乗り物のなかです」と言います。さらには「家族みたいだったけど、私たち他人ですよ」と語られます。この5分ほどの冒頭シーンは「演劇は、どんな関係も場面もつくれる。ごっこ遊びもそうでしょう?」と、私たちに呼びかけているように感じました。この作品のなかでは、白石さん演じる「カオル」は、記憶を無くしています。カオルの記憶をとり戻すために、客席に向けて質問がなされます。イエスなら拍手、ノーなら足踏みで答えます。観客と役者の間でコミュニケーションができるのです。「天国と地獄」を描きながら、客席と舞台が交流する仕掛けによって、この作品は「物語」と「現実」が混在する「演劇」という表現の特徴を伝えていました。現実の役者は生きているが、物語のなかでは死んでいる。死んでいる人物なのに、拍手や足踏みでコミュニケーションできる。「現実には存在しないものとコミュニケーションできる」という不思議な体験を私たちに届けていました。総じて、「ダンスとは何か」「演劇とは何か」ということを自然や地獄といったモチーフをもとに伝えてくれる「KAATキッズ・プログラム2022」の2作品は、「子どもにわかるかどうか」と危惧する大人、あるいは演劇やダンスを普段観ない大人にこそ、その面白さを体験させてくれる作品でした。

KAAT神奈川芸術劇場プロデュース ミュージカル『夜の女たち』

2022年9月9日(金) — 19日(月・祝)

KAAT神奈川芸術劇場 〈ホール〉

原作:久板栄二郎 映画脚本:依田義賢

上演台本・演出:長塚圭史

音楽:荻野清子

出演:江口のりこ、前田敦子/伊原六花、前田旺志郎、北村岳子、福田転球/大東駿介、北村有起哉 ほか

演奏:岸徹至(バンドマスター・ベース)、近藤淳(リード)、奥村晶(トランペット)、阿部寛(ギター)、BUN Imai(ドラム&パーカッション)

行き場のない 無言の声を聴く

文=阿部海太郎(作曲家)

僕にとって、敗戦後の日本の風景は想像でしか思い浮かべることができないものです。ところが日本映画の遺産を享受してきた世代としては、鮮やかな心象として残っていて、特に溝口映画は僕の戦後のイメージの源泉となっています。その心象の一つ『夜の女たち』が、目の前の舞台上、しかもミュージカルとして(ど、どうかしてる!)蘇り、久々に刺激的な観劇を楽しみました。

演出の長塚圭史さんがなぜミュージカルにしようと思ったか、その直観が透徹された作品に思えました。シンプルな大技を繰り出した長塚さんはきっと、敗戦後の人々の生の声を聞きたいと純粋に思ったのだと思います。ここでいう声とは、台詞や歌はもちろん、楽器のメロディーも、さらには死者の声でさえも、ともかく他者に向けて発せられる強烈な何かです。立て



撮影=細野晋司

看板すら何かを言わんとしてこちらに向かってくるのだから。長塚さんはすべてに語らせて、耳を傾けたいと思ったのでしょう。溝口映画のミュージカルへの大胆な脚色は、溝口のリアリズムこそがじつは人々の、行き場のない無言の声を捉えており、果たして演出家を突き動かしたのだと想像しています。ラッパの音が印象的でした。戦地に兵隊が残した音にも聞こえる。今回、荻野清子さんがピアノを弾く姿はありません。けれどもピアノというどこか端麗な楽器を放棄して、労働の匂いがするバンドの響きに構成していました。生きることのつらさと真摯さの痕跡を残していくように。そこにかつて清子さんが作曲した黒テントの芝居の響きを思い出しました。その時よりもはるかに規模の大きい野心的な作品に、作曲家として全身で取り組んだ姿勢に、ただただ脱帽しました。3人の女たちの歌は、生命がこれでもかと輝く名曲でしたね。

KAATな人の行きつけ

《第4回》

MOTOMACHI COFFEE ROASTERY

KAATの周辺は、食事や買い物、観光スポットが豊富な魅力的なエリア。

そこで出演者やアーティスト、スタッフが足しげく通う、この街の“行きつけ”をご紹介します。

写真=石渡 朋



MOTOMACHI BLEND 660円

「MOTOMACHI COFFEE ROASTERY」は、2022年1月にオープンしたブレンドコーヒー専門店です。こちらのコーヒーは、厳選されたシングルオリジン^{※1}のスペシャルティコーヒー^{※2}の生豆を、店内の大きなロースターで自家焙煎したもの。豆の特徴を活かし、それをブレンドすることでさらに香りと味わいが引き立つ一杯に仕上がっています。看板コーヒーの「MOTOMACHI BLEND」は、上品な深いコクと爽やかな酸味を感じる味わいで、穏やかな晴れの日の横浜をイメージしたブレンドなのだから。「公園ブレンド」「海と夕日のblend1850」など、ブレンドの名前からその日の一杯を選ぶ楽しさ。KAATからも徒歩2、3分の近さなので、観劇の前後に立ち寄りたのお店です。

※1 シングルオリジン:単一農園、単一品種のコーヒー豆のこと。ワインのように生産者や銘柄によって味わいの違いを楽しむことができる。 ※2 スペシャルティコーヒー:種子(豆)の段階から一杯のコーヒーになるまで、一貫した体制・工程・品質管理が徹底されたクオリティの高いコーヒーのこと。



MOTOMACHI COFFEE ROASTERY

〒231-0023

神奈川県横浜市中区山下町25-14 モナニビル1F

☎045-211-4669

営業時間:年中無休※年末年始休業 10:00~20:00

座席:カウンター席(電源付き)5、ギャラリー席6、PETエリア2
テイクアウト可

神奈川へ、会いに〈馬車道商店街協同組合〉

長塚芸術監督が、今、気になっている街の人にふらっと会いに出かけます。

第5回は、〈馬車道商店街協同組合〉の理事長として長年、

馬車道の街づくりに携わっている六川勝仁さんを訪ねました。



写真＝石渡 朋

長塚 馬車道は、KAATから歩いてすぐなのですが、また雰囲気が違って面白いです。欧風建築の神奈川県立歴史博物館があり、パリの街並みに似たものを感じます。

六川 馬車道は、2017年に開通150周年を迎えました。その当時(慶応3年)は、外国人居留地と日本人が住む場所の境目だったので、諸外国から影響を受けて、アイスクリームをはじめ、ガス灯、近代街路樹など、さまざまな文化の発祥地になっています。

長塚 アイスクリームといえば、僕の誕生日は5月9日、「アイスクリームの日」なんですよ。

六川 アイスクリーム発祥の地を記念した「太陽の母子像」は私の会社である〈アート宝飾〉のビルの前にありますし、「アイスクリームの日」を記念して、毎年、馬車道商店街で、タカナシ乳業提供の〈横濱馬車道あいす〉を配布しています。

長塚 緑を感じますね(笑)。馬車道には映画館や劇場は？

六川 映画館はかつて「横浜東宝会館」がありましたが、2001年に閉館してしまいました。でも、関内ホールでは、演劇やコンサートが行われていますし、商店街でもイベントをたくさん開催しています。〈ザ よこはまパレード〉や〈横濱ジャズプロムナード〉、関内ホールと連携して開催した〈馬

車道まつりアートフェスタ

2022〉は今年、ガス灯に明かりが灯って150周年ということでコンサートを開催し、神奈川フィルハーモニー管弦楽団の石田泰尚さんや中島剛さん、山下洋輔さんや、東京藝大ウィンドオーケストラが演奏を披露してくれました。

長塚 豪華ですね！ やっぱり街に文化が根づいているなあ。

六川 このあたりにはジャズバーも20軒以上、ストリートピアノもあるんですよ。これまでに、馬車道は大きな街づくりを2回行っています。第一回は1973年からです。「馬車道まちづくり協定書」を締結し、店舗の外観や看板などにルールを設けて、馬車道商店街の基礎をつくりました。2003年に完成した馬車道再開発第二期は「ガーデンストリート馬車道」をテーマに、大人の本物の街を目指そうと取り組みました。このあたりには歴史的な建物が多いので、専門家の先生方にもご協力いただき、保存・修復活動も行っています。

長塚 我々KAATも、もっと横浜の街と連携しながら、観劇のあとに中華街やレストランで食事をして、夜は横浜に泊まり、翌日は観光をするという流れをつくりたいのですが、いかんせん、コロナが邪魔をしています。日帰りで観光するだけではなく、1泊してみると、いつもの景色がガラッと変わるんですよ。

六川 ブロードウェイのように、観劇したあと、街に出て食事を楽しむような流れが生まれたら理想ですね。横浜は徒歩圏内に、元町や中華街、伊勢佐木町、野毛という個性豊かな街があり、そこに劇場が点在しています。この点が線となれば、訪れる人が回遊してくれると思うのですが。

長塚 街づくりにおいて、六川さんの夢は何でしょう。

六川 馬車道でガラパーティを開催したいんですよ。県立歴史博物館や東京藝術大学馬車道校舎、旧第一銀行横浜支店も会場に、みんなで着飾ってね。ニューヨークではよく行われていますが、街と文化が一体となっている馬車道ならそれを象徴するようなイベントができるんじゃないかと思っています。



六川さんの店舗〈アート宝飾〉と地元球団である横浜DeNAベイスターズとのコラボジュエリー。

今日はKAATに何しに来たの？

観劇やアート鑑賞、街散策など、さまざまな目的でたくさんの人が集まるKAAT。そこで、秋のある1日、KAATを訪れた人たちに「今日は何しに？」と声をかけてみました。

共通質問

- Q1 今日は何をしにKAATに来ましたか？ Q2 お住まいは近所ですか？
Q3 KAATにはよく来ますか？ Q4 KAATのことはどこで知りましたか？
Q5 KAATの好きなところは何ですか？

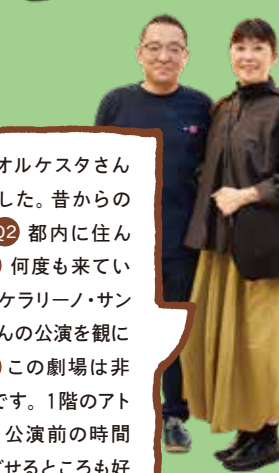
- Q1 今日は友人と、「横濱 JAZZ PROMENADE 30年記念／横浜音祭り2022 連携事業「たをやめオルケスタ with 土屋アンナ」を観に来ました。
Q2 横浜市内です。Q3 普段はみなとみらいで遊ぶことが多くて、KAATに来るのは今日が初めてです。横浜にこんな素敵な場所があるんですね。

- Q1 もともと、たをやめオルケスタさんのファンで観に来ました。Q2 葛飾区からです。Q3 初めてです。前回、墨田区のジャズフェスでたをやめオルケスタさんの演奏を聴いて、ぜひ来たいと思いました。Q4 東京の前は神戸に住んでいました。今日元町・中華街駅を降りた時、横浜の街の雰囲気やKAATの建物の重厚な雰囲気がどことなく神戸に似ていると感じました。懐かしいですね。

- Q1 たをやめオルケスタさんを聴きに来ました。昔からのファンです。Q2 都内に住んでいます。Q3 何度も来ています。前は、ケラリーノ・サンドロヴィッチさんの公演を観に来ました。Q5 この劇場は非常に観やすいです。1階のアトリウムが広く、公演前の時間をゆったり過ごせるのも好きです。館内には映像展示などもあり、面白いですよね。



10代 女性 学生



50代 男性 会社員
女性 主婦

KAAT新シーズン始動。

外壁ビジュアルが新しくなりました！

撮影＝大野隆介



KAAT公式YouTubeチャンネルでは、外壁貼り替えのタイムラプス映像を公開中です！

2022年度のメインシーズンが9月から始まりました。シーズンタイトルは「忘却」の「忘」。今回はシーズン開幕に合わせてリニューアルされた外壁について紹介します。外壁ビジュアルを担当されたデザイナーで、KAATの劇場広報アートディレクションをお願いしている吉岡秀典さん、イラストレーター長崎訓子さんのお二人に、ビジュアルに込めた思いをお聞きました。

デザイナー 吉岡秀典

外壁のメインビジュアルは「舞台」。その舞台のなかには、なんと海が広がっています！イラストを担当していただいた長崎訓子さんのアイデアです。波が立ち上がり、崩れて消え、また立ち上がる……。儚さとダイナミックさがあり、すべてを忘れさせてくれる巨大な水溜り。失恋した心を受け止めてくれる海。文明を飲み込み、すべてを過去のものにしてしまう海、などなど……。『忘』シーズンのニュアンスを表現するのにピッタリだと感じさせられました。

イラストレーター 長崎訓子

いくつもの物語が日々上演される舞台は、いろいろな感情や出来事を包み込んでいく大きな海のようなところなのでは？と思ったこと、そして「忘」というシーズンタイトルと、寄せては返す波が、忘れること、忘れ去られること、が繰り返されていく様子とも結びつき、今回の作品になりました。海や波と一緒に演目をイメージするモチーフのほか、気持ちが変化していくお客さまや、舞台を支える人々など、盛りだくさんな人や物たちが登場しています。



主催公演

《メインシーズン「忘」プログラム》

KAAT神奈川芸術劇場プロデュース

『ライカムで待っとく』

11月27日(日)－12月4日(日) (中スタジオ)

作:兼島拓也

演出:田中麻衣子

出演:亀田佳明、前田一世、魏涼子、あめくみちこ ほか

チケット発売中

沖縄の新鋭作家・兼島拓也が放つ、
誰も読もうとしなかった、読まれなかった沖縄の物語。
1964年占領下で起きた米兵殺傷事件の犯人として逮捕された
沖縄の青年達と、今を生きる青年達が交差する、沖縄の物語。

横浜国際舞台芸術ミーティング 2022(YPAM2022)

ブラレヤン・ダンスカンパニー(台湾)『LUNA』
12月3日(土) (ホール)

CINARS ショーケース

シアター・ジャンクション(カナダ)

『カオスモス:脱植民地化されたキャバレー』

12月7日(水)－12月8日(木) (中スタジオ)

オル太(日本)『ニッポン・イデオロギー(仮)』

12月9日(金)－12月11日(日) (大スタジオ)

ヤン・ジェン(中国)『ジャスミンタウン』

12月10日(土)－12月11日(日) (ホール)

KAAT DANCE SERIES

『星の王子さま』

サン＝テグジュペリからの手紙』

2023年1月21日(土)－1月29日(日) (ホール)

演出・振付・出演:森山開次

美術:日比野克彦 衣裳:ひびのこづえ 音楽:阿部海太郎

出演:アオイヤマダ、小尻健太、酒井はな、島地保武/坂本美雨 ほか

チケット発売中

豪華ダンサーとアーティストが紡ぐ
『星の王子さま』の世界、待望の再演!
「大切なことは目に見えない」。大人も子どもも魅了するサン＝
テグジュペリの美しい言葉と物語が、至極のダンス作品に。

KAAT神奈川芸術劇場プロデュース

『蜘蛛巣城』

2023年2月25日(土)－3月12日(日) (ホール)

上演台本:斎藤雅文、赤堀雅秋

演出:赤堀雅秋

出演:早乙女太一、倉科カナ

長塚圭史、中島歩、長田奈麻、山本浩司、水澤紳吾、

久保耐吉、赤堀雅秋、銀粉蝶 ほか

12/18(日)一般発売 12/4(日)KAme先行

戦乱の世に翻弄される若き夫婦。
黒澤明による傑作映画を赤堀雅秋が舞台化。
シェイクスピアの『マクベス』を、黒澤明が日本の戦国時代に翻
案した映画を舞台化。若さゆえの疾走、破滅への物語を描く。

KAAT神奈川芸術劇場プロデュース

『掃除機』

2023年3月4日(土)－3月22日(水) (中スタジオ)

作:岡田利規

演出:本谷有希子 音楽:環ROY

出演:家納ジュンコ、栗原類、山中崇、環ROY、

俵木藤汰、猪股俊明、モロ師岡

1/14(土)一般発売 12/24(土)KAme先行

ドイツで高い評価を得た岡田利規の話題作を、
本谷有希子演出で日本“語”初演!
引きこもりの50代娘、無職の40代息子と80代の父親。掃除機
の目線から描かれるある家族の情景。

〈チケット取り扱い・お問い合わせ〉

チケットかながわ 0570-015-415(10:00～18:00/年末年始を除く)

提携公演

● 地点によるイェリネク戯曲連続上演『ノー・ライト』
<https://www.kaat.jp/d/nolight>

● Orchardシリーズ PwC Japanグループ Presents
K-BALLET Opto「プラスチック」
<https://www.kaat.jp/d/plastic>

● 地点によるイェリネク戯曲連続上演
『騒音。見ているのに見えない。見えなくても見ている!』
<https://www.kaat.jp/d/larm>

KAAT 公演スケジュール 2022-2023 WINTER

	11月27日(日)－12月4日(日)	KAAT神奈川芸術劇場プロデュース『ライカムで待っとく』	中スタジオ
	11月28日(月)	KAATフレンドシッププログラム「みんなのKAAT バックステージツアー」	ホール
	12月3日(土)	横浜国際舞台芸術ミーティング 2022(YPAM2022) ブラレヤン・ダンスカンパニー『LUNA』	ホール
	12月7日(水)－12月8日(木)	横浜国際舞台芸術ミーティング 2022(YPAM2022) CINARSショーケース	中スタジオ
	12月9日(金)－12月11日(日)	横浜国際舞台芸術ミーティング 2022(YPAM2022) オル太『ニッポン・イデオロギー(仮)』	大スタジオ
	12月10日(土)－12月11日(日)	横浜国際舞台芸術ミーティング 2022(YPAM2022) ヤン・ジェン『ジャスミンタウン』	ホール
	12月16日(金)－12月20日(火)	CCCcreation『沈丁花 ―ジンチョウゲ―』	大スタジオ
	12月16日(金)－12月18日(日)	地点によるイェリネク戯曲連続上演『ノー・ライト』	ホール
	12月17日(土)－12月18日(日)	KAATフレンドシッププログラム「スクランブル・ダンスプロジェクト ver.LAND FES DIVERSITY」	アトリウム
	12月23日(金)	KAATフレンドシッププログラム「みんなのKAAT バックステージツアー」	ホール
	12月23日(金)－12月27日(火)	劇場公演『獅子と仁人』～ししとひと～	大スタジオ
	12月24日(土)	KAATフレンドシッププログラム ホノ下歌舞伎「超・初心者古典芸能講座」聴覚サポートver.	アトリウム
	2023年1月8日(日)－1月9日(月・祝)	Orchardシリーズ PwC Japanグループ Presents K-BALLET Opto「プラスチック」	ホール
	1月13日(金)	KAATフレンドシッププログラム「みんなのKAAT バックステージツアー」	ホール
	1月15日(日)	避難訓練体験 in KAAT 《寄席》	ホール
	1月21日(土)－1月29日(日)	KAAT DANCE SERIES『星の王子さま サン＝テグジュペリからの手紙』	ホール
	1月21日(土)－1月29日(日)	KAATフレンドシッププログラム「星の王子さまと旅することばの世界」	アトリウム
	1月22日(日)－2月5日(日)	KAATフレンドシッププログラム「横浜中華街 2023横浜春節祭 ランタンオブジェ展示」	アトリウム
	2月3日(金)－2月12日(日)	宝塚歌劇雪組 神奈川芸術劇場公演 ミュージカル・フォレルスケット 『海辺のストルーエンセ』	ホール
	2月13日(月)	KAATフレンドシッププログラム「みんなのKAAT バックステージツアー」	ホール
	2月16日(木)－2月23日(木・祝)	地点によるイェリネク戯曲連続上演『騒音。見ているのに見えない。見えなくても見ている!』	大スタジオ
	2月25日(土)－3月12日(日)	KAAT神奈川芸術劇場プロデュース『蜘蛛巣城』	ホール
	3月4日(土)－3月22日(水)	KAAT神奈川芸術劇場プロデュース『掃除機』	中スタジオ
	3月13日(月)	KAATフレンドシッププログラム「みんなのKAAT バックステージツアー」	ホール

※情報は11月27日現在のものです。変更となる場合がございます。予めご了承ください。詳細は、各公演のウェブサイトをご確認ください。

KAAT 神奈川芸術劇場

〒231-0023 神奈川県 横浜市中区山下町281

TEL.045-633-6500(代表) FAX.045-681-1691

<https://www.kaat.jp>

- みなとみらい線:渋谷駅から東横線直通で35分!横浜駅から6分!
日本大通り駅から徒歩約5分。元町・中華街駅から徒歩約8分。
- JR根岸線:関内駅または石川町駅から徒歩14分。
- 市営地下鉄:関内駅から徒歩14分。
- 市営バス:芸術劇場・NHK前すぐ。
横浜駅前東口バスターミナル 2番のりば乗車(所要時間約25分)
桜木町駅前バスターミナル 2番のりば乗車(所要時間約10分)
※上記のりばから発車するバスはすべて「芸術劇場・NHK前」を通ります。
ただし、148系統急行線を除く。
- 神奈川芸術劇場有料駐車場(65台)もご利用下さい。
指定管理者:(公財)神奈川芸術文化財団

KAAT神奈川芸術劇場では新型コロナウイルス
感染症拡大予防対策を徹底し公演を実施
します。ご来場前に必ず、劇場HPの「ご来場
のお客様へのお願い」をご確認ください。



KAAT PAPER 読者アンケート

今後の紙面づくりに活かすため、皆さまのご意見・ご感想をぜひお寄せください。アンケートにご回答いただいた方の中から抽選で、1組2名様に
KAAT神奈川芸術劇場プロデュース『蜘蛛巣城』(演出:赤堀雅秋/ご招待日:2023年3月1日(水)14:00開演の回のチケットをプレゼントいたします。
※チケットプレゼント応募期限:2023年1月31日(火) ※厳選なる抽選の上、当選者の発表はメールでのご連絡をもって代えさせていただきます。

